

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は 109 ~ 110 円台で堅調な推移か

[6月7日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		5月31日~6月4日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	109.84	110.33(4)	109.33(1)	110.22	+0.37
ユーロ・ドル	1.2182	1.2254(1)	1.2104(4)	1.2113	-0.0079

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	28,941.52	-207.89	日本10年債利回り	0.087	+0.004
ダウ平均株価	34,577.04	+112.40	米10年債利回り	1.625	+0.031

=====

<来週の主要経済統計等>

- 7日 中国5月貿易収支
日本4月景気動向指数速報値
スイス5月雇用統計
独4月製造業受注指数
スイス5月消費者物価指数
- 8日 日本4月経常収支
日本第1四半期国内総生産(GDP)2次速報
独4月鉱工業生産指数
独6月ZEW景況感指数
ユーロ圏第1四半期域内総生産(GDP)確報値
カナダ4月貿易収支
米4月貿易収支
- 9日 中国5月消費者物価指数、中国5月生産者物価指数
独4月貿易収支、独4月経常収支
カナダ銀行政策金利
- 10日 欧州中央銀行(ECB)政策金利
ラガルド総裁記者会見
米5月消費者物価指数
米新規失業保険申請件数
米5月財政収支
- 11日 英4月鉱工業生産指数、英4月製造業生産指数、英4月貿易収支
米6月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値
主要7か国(G7)首脳会議(11~13日)

【前回のレビュー】米経済指標が予想に沿ったおおむね良好な結果となれば、米長期金利も落ち着いた動きになるとみられる。その場合は緩やかなドル買いにつながり、ドル円は109~110円台を中心に底堅い動きを続けるとした。

【米経済指標が良好でドル円は110円台を回復】

ドル円は5月28日に110.20円前後まで上昇したものの、その後は110円を割り込んだ。米連邦準備制度理事会(FRB)がインフレ指標として重視する4月の米PCEデフレーターは前年比+3.6%、コアデフレーターは前年比+3.1%と予想を上回った。ただ、材料出尽くし感もあり、ドル円は110円台を維持できずに下げに転じた。

1日に発表された5月の米ISM製造業景況指数は61.2となり、事前予想の6

0.9や前回の60.7を上回った。詳細を見ると、新規受注は67.0と前回の64.3を上回った。一方で、生産は58.5（前回は62.5）、雇用は50.9（前回55.1）と前回から低下した。サプライチェーンの問題が生産などに悪影響を及ぼしている。生産や雇用の悪化を受けて、ドル売りの動きにつながり、ドル円は109.33近辺まで下落した。

2日に米連邦準備制度理事会（FRB）から発表された米地区連銀経済報告（ページブック）では、「経済は4月初旬から5月下旬にかけて緩やかに拡大した」と景気が上向いたとの認識を示した。また、「インフレ圧力は前回の報告からさらに強まった」と物価上昇への警戒感をにじませている。さらに「労働力需要は力強いはまだが、供給は抑制」とサプライチェーン（供給網）の逼迫が企業活動への影響を及ぼすとの認識を示した。内容にサプライズはなく、市場への影響は限定的となった。

3日の5月の米ISM非製造業景況指数は64.0と事前予想の63.2や前回の62.7を上回り、過去最高を記録した。米ADP雇用統計は97.8万人増となり、事前予想の65.0万人増や前回の65.4万人増（改定値）を上回った。新規失業保険申請件数は38.5万人となり、市場予想の38.7万人を下回った。経済指標の改善を好感して、米10年債利回りは1.625%付近まで上昇した。米長期金利の上昇を受けて米国株は売られたものの、ドル買いの動きとなり、ドル円は110.32まで上昇した。

ドル円は109～110円台の狭いレンジ内でもみ合いとなっている。この間、米10年債利回りは1.58～1.61%前後での推移を見せ、3日には1.625%近辺まで上昇した。ドルインデックスは5月25日に89.54前後まで下落して今年1月以来の安値圏に沈んだあとは89～90台でもみ合いとなり、3日に90.50近辺まで戻して安値圏から出直りつつある。

3日に米長期金利は1.62%台まで上昇してドル買いに傾き、ドル円は4月6日以来の高値圏まで上昇している。押ししたところでも大きな崩れはなく、底堅い推移を見せており、109～110円台で堅調な推移となりそうだ。なお、10日の米5月消費者物価指数が前回のよう予想から大きく上振れすると、テーパリング期待から米長期金利が上昇して、ドル買いが強まる可能性も出てきそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、108.75～111.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、7日に日本4月景気動向指数速報値、8日に日本4月経常収支、日本第1四半期国内総生産（GDP）2次速報、米4月貿易収支、10日に米5月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数、米5月財政収支、11日に米6月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルは上昇トレンド一服か】

ユーロドルは5月25日に1.2266まで上昇した後は1.2200ドルを挟んでの振幅が続いた。欧州でのワクチン接種拡大により、行動制限が緩和されて経済活動の活発化が期待されて、ユーロの下値を支えてきた。ただ、3日の米経済指標が良好だったことを受けてドル買いに傾き、1.21台前半まで値を崩した。

経済活動が改善してきたことで、パンデミック緊急購入プログラム（PEPP）による債券購入ペースの減速観測が広がっている。一方で、欧州中央銀行（ECB）のラガルド総裁など、こうした量的緩和縮小（テーパリング）など出口戦略についてけん制する当局者の声もあり、ユーロドルの上値を抑えている。

ユーロドルは強弱感が交錯しているものの、これまで下値を支えてきた21日移動平均線を割り込んでおり、上昇トレンドが一服して修正安に転じるとみられる。なお、10日の欧州中央銀行（ECB）理事会では政策金利や金融政策に変更はないとみられる。早期のテーパリング期待をけん制してくれば、ユーロには重石となろう。ユーロドルの目先の予想レンジは1.2000～1.2250ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、7日に中国5月貿易収支、スイス5月雇用統計、独4月製造業受注指数、スイス5月消費者物価指数、8日に独4月鉱工業生産指

数、独 6 月 Z E W 景況感指数、ユーロ圏第 1 四半期域内総生産（G D P）確報値、カナダ 4 月貿易収支、9 日に中国 5 月消費者物価指数、中国 5 月生産者物価指数、独 4 月貿易収支、独 4 月経常収支、カナダ銀行政策金利、1 0 日に欧州中央銀行（E C B）政策金利、ラガルド総裁記者会見、1 1 日に英 4 月鉱工業生産指数、英 4 月製造業生産指数、英 4 月貿易収支などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。